

平成25年度 評価計画及び自己評価

(計画 中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<p>〈ミッション〉 (学校の使命) 小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てることを使命とする。</p> <hr/> <p>〈ビジョン〉 (将来の学校像) アメニティ環境に包まれる学校 ・行くのが楽しみな学校の実現を目指す。 ・会うとうれしくなる先生の育成を目指す。 ・会うとうれしくなる仲間の構築を目指す。</p>
----------	---------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	<p>○学年が上がるにつれ、学習面・生活面の落ち着きが見られる。</p> <p>○小中一貫教育のメリットを生かした乗り入れ授業や異学年交流がスムーズに行えている。</p> <p>△学園全体として、各学年に応じて自治能力を育て、高めていく取組が十分でない。</p> <p>△小5ギャップが生じており、中学入学後も課題を引きずっている。</p>
------------------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから ①・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。 <div>貫</div>	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	自治会長会、民児協、補連協等と連携し、地域と共に「あいさつのできる」警固屋つ子を育てる。	「自分を創る」の言葉のレベルが3(規律)以上を達成できる生徒の割合が90%以上になる。	90%	73%	81%	B			
		○相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。	発達段階に応じた話型を示し、話し方の基本を徹底する。	生徒の学校生活での話し方について、教員及び生徒の肯定的評価の割合が85%以上になる。	80%	75%	94%	B			
		○「自分を創る」ことを意識して生活できる。	自立ノートを活用し、毎日の生活を「自分を創る」観点から振り返らせる。	自立ノートに毎日の生活について五行以上書ける生徒が85%以上になる。	85%	72%	85%	B			
**	かけがえのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないのちであることを自覚できる。	道徳教育の重点目標を「生命尊重」とし、教育相談や自立ノートを効果的に活用し、生徒相互の共感性を高める。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価が100%になる。	100%	87%	87%	B			
		○いじめを許さない学校風土を作る。	いじめ撲滅月間で生徒会による目標設定など、主体的な活動を促し、意識を高める。	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答が100%になる。	100%	95%	95%	B			
★	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力の基礎を育てる。	授業研究を年間に各自2回は実施する。授業研究を通して教員が共に学び合い、授業力を高めていく。	思考力の育成のための発問の工夫や授業の展開について、授業研究の際の教員の肯定的評価が85%以上になる。	85%	91%	107%	A			
		○生徒指導の三機能を生かした授業によって、生徒の発言をつなぐ。		生徒の発言のつながりや、そのための場の設定について、授業研究の際の教員の肯定的評価が85%以上になる。	85%	82%	96%	B			
★	生徒の体力向上を図る。 <div>貫</div>	○課題のある柔軟性を向上させる。	保健体育科及び部活動の準備運動等において、柔軟性を高める運動に継続して取り組む。	長座体前屈の県平均を上回る生徒の割合が70%以上になる。	70%	49%	69%	C			

【k:評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

平成25年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。	<p>○いつでも誰に対しても気持ちのいいあいさつと返事ができる。</p> <p>○相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。</p> <p>○「自分を創る」ことを意識して生活できる。</p>	<p>地域の方の75.2%が、「中学生は、地域で自分から進んであいさつをしている。」と肯定的な評価をしており、生徒の87%が、「学校の外でも進んであいさつしている」と回答している。しかし、「自分を創る」の言葉のレベルを3(規律)以上にするについては、73%の生徒の達成にとどまった。これは、生徒が地域の人に対するあいさつはできているが、きまりやマナーを意識したあいさつ、日常の言葉遣いも含めて不十分であると考えられる。</p> <p>生徒の72%が、「私は相手に伝わるように意識して最後まではっきりと話をしています。」と肯定的な評価をしている。しかし、教職員は18%しか「生徒は学校生活の中で相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。」と肯定的に捉えていない。 生徒と教職員の評価がかけ離れているのは、肯定的な回答をしていない28%の生徒に、教職員が課題を捉えているとともに、学校生活全般について評価している結果であると考えられる。</p> <p>生徒の74%が、「私は毎日『自立ノート』を最後まで記入しています。」と肯定的に評価している。また、教職員の66%が、「生徒は自立ノートに毎日の生活について5行以上書いている。」と肯定的に評価している。 アンケート結果から、生徒・教職員ともに評価は、目標値の85%には到達していない。これは、生徒に長い文章を書く習慣が定着していないこと、内容も一日の出来事などに終始しているものが多く、一日の自分の生活を振り返り、高めようとする意識が少ないと考えられる。</p>	<p>・校内でのあいさつ運動をもっと積極的に行う。特に授業の号令や返事、意見発表のときの声の大きさや姿勢など、今まで以上にきちんとできるように全教職員が共通理解をして、できなければやり直しを何回もするなど改善していく。</p> <p>・生徒に育てたい力「自分を表現する力」の育成に向けて、自分の考えを最後まで表現することが重要である。その基本である主語と述語を意識させたい。話型の提示をはじめとして、めざす姿が生徒がはっきりと自覚できるように、授業や部活動など様々な場面において徹底した指導を行う。</p> <p>・自立ノートの一日の振り返りにより、自己を見つめ直し、改善していこうとする習慣を身につけさせることは重要である。自立ノートの一日の振り返りを通して内面をみつめ深化させるように日々の働きかけを行う。具体的には、一日の出来事から感じたこと考えたことと明日への目標を書くことの習慣化を目指す。</p>
★★	かけがいのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	<p>○一人一人がかけがえのないのちであることを自覚できる。</p> <p>○いじめを許さない学級風土を作る。</p>	<p>生徒の87%が、「私は自分も友だちも大切にしています。」「私は生まれてきたことに感謝し、精一杯生きていこうと思っています。」と肯定的に評価している。 アンケート結果から、数値だけみると低くはないが、目標値100%には届いていない。また、生徒の自己肯定感が低い(56%)ことから、自分に自信が持てず、思いと言動が一致していない部分があると考えられる。</p> <p>・生徒の95%が、「いじめはない」と回答している。これは、平成20年度から「いじめ撲滅キャンペーン」を行い、全校生徒一人一人を対象に丁寧な教育相談を行った結果で、徐々にその成果が表れていると思われる。</p>	<p>・自立ノートの返信を丁寧に行い、教育相談を定期的に行うなど、個々の思いを引き出せる場を確実に設定し、皆がかけがえのない存在であることを認識させる。具体的には、日々の授業で自分の考えを表現させたり、友だちの意見と比較する。また、行事等で達成感を味わわせ仲間との絆を深めていくことで、一人一人の大切さを認識させる。</p> <p>・警固屋学園10月の生活目標について、2学期は児童会が中心となって「いじめ撲滅」に関する目標を設定する。それを学園朝会で披露し、1～9年生全体を啓発すると同時に、1学期から継続している教育相談を実施し、一人一人の生徒の状況把握に努める。残り5%の生徒については、面談を行ったり、保護者と連絡を密にしながら、生徒の悩みの解消に努める。</p>
★	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	<p>○思考力の基礎を育てる。</p> <p>○生徒指導の三機能を生かした授業によって、生徒の発言をつなぐ。</p>	<p>教職員の91%は、「私は思考力・表現力の基礎を育てるために、授業展開の工夫を行っている。」と肯定的に評価しており、目標値85%を上回っている。 アンケート結果から、校内の研究授業や学園研修の実施などにより、研究テーマを意識した授業展開が行われていると考える。</p> <p>教職員の82%が、「私は生徒指導の三機能を生かして、生徒の発言をつなぐ授業づくりをしている。」と肯定的に評価しているが、目標値85%をわずかに3ポイント下回っている。 アンケート結果から、各教科における「つながりのある発問」についての研修をさらに進める必要がある。</p>	<p>・研究授業や学園研修等を通してより充実した授業展開が図れるように工夫を重ねていく。具体的には、授業の中で、自分の考えを持つ場面、友だちの考えと比較し深め広げる場面を仕組みたい。また思考を深める発問を意識したい。</p> <p>・発問の工夫を第一に、教材研究をさらに進める。また、交流授業・研究会等への積極的参加により、さらなる研修を深めていく。具体的には、生徒指導の三機能を意識し、生徒同士がかわり合い、生徒が発言をつなぐ授業づくりを行う。</p>
	生徒の体力向上を図る	○課題のある柔軟性を向上させる。	<p>長座体前屈において、県平均(H24)を上回る生徒</p> <p>1年男子 41.7% 1年女子 50.0% 2年男子 44.4% 2年女子 53.8% 3年男子 45.5% 3年女子 55.6%</p> <p>8～9年生では、76%の生徒が昨年より向上している。しかし、県平均を上回る生徒が49%であり、依然として柔軟性に課題が見られる。</p>	<p>・小中合同で取り組んでいる月1回の「ノーゲームデー」において、ストレッチを奨励し、生徒の意欲を高めていく。</p> <p>・保健体育科の授業で、準備運動の中に、柔軟運動を取り入れる。また、長期休業中に、ストレッチの課題を出す。</p> <p>・運動部活動の顧問と連携し、各競技に応じたストレッチを継続して行う。</p>

平成25年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	今年度の学校教育目標や、学校の経営方針等については、地域の自治会長連合会や民生児童委員会で、また学校ではPTA総会などで説明されているので、地域も保護者も十分理解している。どれも社会人としての基礎となる大事な力であるので、十分に伸ばして欲しい。
目標達成のための方策の適切さ	A	昨年度の学校関係者評価委員会で出された意見を取り入れ、「あいさつのひびきあう警固屋をめざして」、学校が地域住民に協力を要請すると共に、実態を把握するためにアンケートを実施されたのは、学校と地域が双方向の教育活動を実践するという点において大変意義あることだと思う。
自己評価の結果と分析の適切さ	B	自己評価の数値が、生徒の実態と比べてやや低いように思う。アンケートの問い方を工夫する必要があるのではないだろうか。中でも、地域住民のあいさつのアンケートの記述に、「地域で中学生と会わない。」という意見が多く見られた。生徒数の減少により、そんな実態の地区もあるので、アンケートの回答に「わからない」を加えた方が良い。
今後の改善策(案)の適切さ	A	分析に基づいて、適切な改善策が講じられている。子ども達が、文末まで言わなくなっているのは、大人もそうであり、言わなくても済んでしまう環境をつくっている実態がある。家庭の中でも意識していく必要がある。
その他		・昨今いじめ問題が盛んにマスコミ等で取り上げられている。スマートフォンによるいじめがあるとも報じられている。このような場合学校ではなかなか実態把握が難しい面があると思うが、しっかり子どもと向き合っていきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○学校が掲げる重点目標は、家庭の協力を得ることで、より効果的に達成することができる。保護者の協力を得るため、学校でのこうした具体的な取組について、さらに保護者に知らせていく必要がある。さっそく11月1日に行う「教育説明会」での一つの柱としたい。またPTA実行委員会、学級懇談会等を活用しながら、周知していきたい。</p> <p>○自治会長連合会や各自治会の班長、さらに民生児童委員会、保護者に「あいさつのひびきあう警固屋をめざして」のチラシを配布し、中学生を中心に据えて、地域を巻き込んだ教育活動を展開している。今後も地域との信頼関係を基盤として、継続して実施していきたい。実態把握のアンケートについては、指摘のあった点について改善を加え、1月末に実施する。</p>
--------------------	--